

～お知らせ～

- ◆名札は見える位置にお貼りください。
- ◆水分補給は適宜お願いします。
- ◆お手洗いは会場を出て、前方及び後方にございます。
- ◆市役所立体駐車場をご利用の方は、無料処理を行いますので、お近くの職員にお声おかけください。
- ◆その他、お気軽にご相談ください。



避難施設 関係者 事前研修

場所

町田市役所3階会議室

町田市森野2-2-22

(車でお越しの方は、駐車券を会場まで持参願います)

テーマ

避難施設の運営力向上

(市からのお知らせ、グループワーク、今年度の計画作成)

参加申込み

下記QRコードからお申し込みください。

※参加希望者多数のため、会場を広く確保させていただきました。追加で募集させていただきますので参加をご希望の方は、ぜひご参加ください。

※上限3名/施設の枠を超えての参加も可能とさせていただきます。

申込期限

6月5日(月曜) 正午



【お問い合わせ】

町田市防災課地域防災担当 (042-724-2107)

2023年6月開催

9日(金) PM

13:30から16:00

相原地区：相原小、堺中、大戸小、武蔵岡中
小山地区：小山小、小山ヶ丘小、小山中央小、小山中
忠生地区：忠生小、忠生中、小山田小、山崎小、小山田南小、七国山小、函師小、山崎中、小山田中、町田工科高校、山崎高校

12日(月) AM

9:30から12:00

木曽地区：木曽境川小、町三中、木曽中、町田総合高校、教育センター、忠三小
鶴川地区：鶴一小、鶴中、大蔵、金井小、金井中、三輪小、真光寺中、鶴二中、鶴三小、鶴二小、鶴四小、野津田高校、陸上競技場

12日(月) PM

13:30から16:00

南地区：南三小、南四小、つくし野小、小川高校、小川小、鶴間小、南つくし野小、南一小、南中
高ヶ坂成瀬地区：南成瀬小、南二小、成瀬高校、高ヶ坂小、成瀬中央小、南成瀬中

13日(火) PM

13:30から16:00

町田第一地区：町二小、町二中
町田第二地区：町一小、町三小、町四小、本町田東小、本町田小、町一中、藤の台小、薬師中、町田高校
玉南・成瀬台地区：町五小、町六小、南大谷小、南大谷中、成瀬台小・中

※対象の日時にてご参加ください(対象日時以外での参加については、防災課までお知らせください)。

本日の内容



◆ 講習（30分）

～小休憩（5分）～

◆ グループワーク①（30分）

平常時における準備（活動内容、その特徴・工夫など）

～小休憩（5分）～

◆ グループワーク②（30分）

今年のスケジュール作成（関係機関との連携等）



研修終了後、交流のお時間を設けさせていただきますのでお時間がある方はご参加ください。

講習



- ◆ 研修について
- ◆ 被害想定（2022年度 東京都公表）
- ◆ 防災WEBポータル
- ◆ まちだ防災カレッジポータルサイト
- ◆ 市の態勢（風水害、地震災害）
- ◆ 指定職員
- ◆ モデルマニュアル
- ◆ 感染症対策
- ◆ 過去の災害における状況
- ◆ トイレ問題
- ◆ リーダーの役割

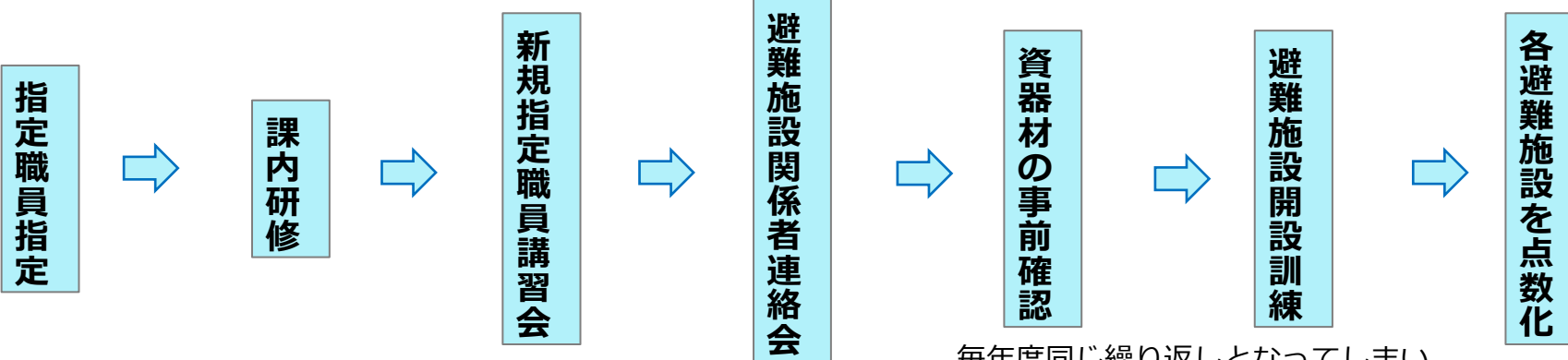
避難施設運営力の向上～地域が避難の在り方を考えるために～



事前研修の実施について

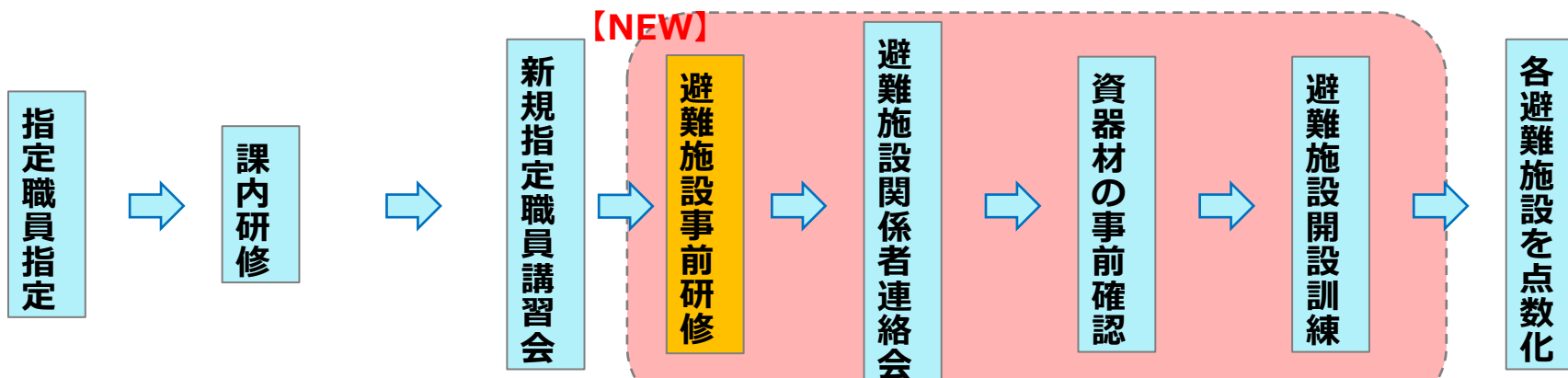
2022年度に、各避難施設において連絡会及び開設訓練を実施し、**開設のファーストステップ**を確認しました。そこで、2023年度から、全避難施設において**地域主導で運営できること・避難の在り方を考えること**を目指し、避難施設に関する情報共有や運営の方向性を事前に確認するため、事前研修を実施します。

2022



毎年度同じ繰り返しとなってしまう、なかなか積みあがっていない施設が多いという声…

2023
-2025
(予定)



地域で課題を認識・共有し、スケジュールをたてることでよりよい運営を目指します



町田市における被害想定

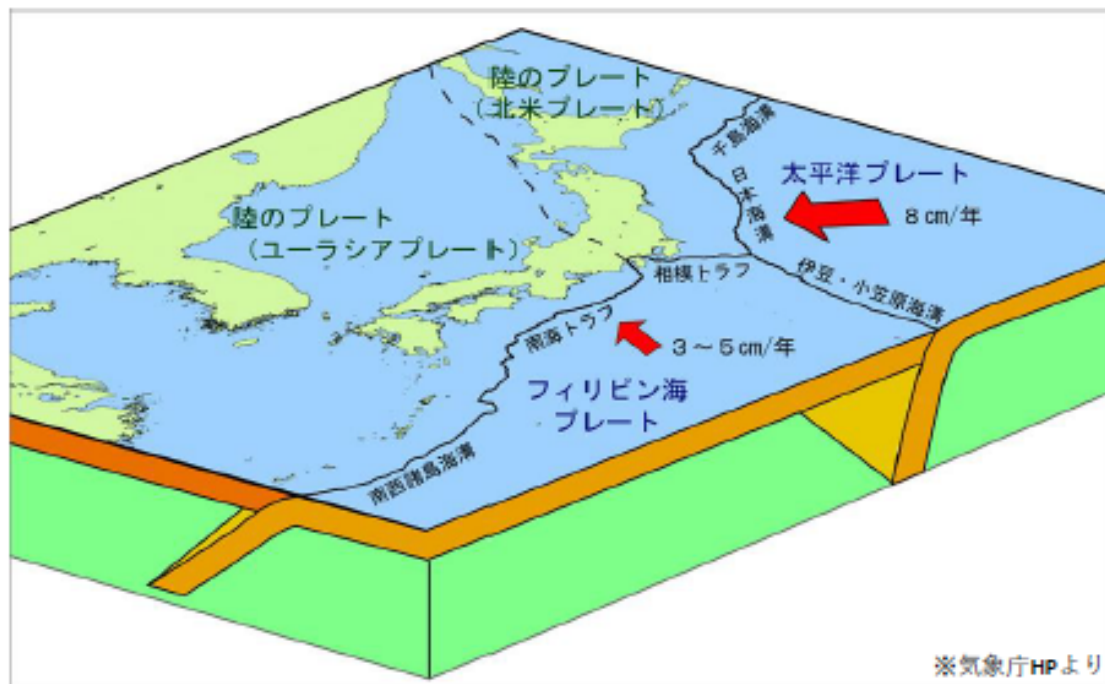
東京都が新たな被害想定を2022年5月25日に公表しました。町田市における従前の被害想定（2012年度公表）と新たな被害想定との差異については下表のとおりです。

	新	旧
名称	多摩東部直下地震	多摩直下地震
死者数（人）	121	229
負傷者数（人）	2,126	3,200
避難者数（人）	58,411	92,758
帰宅困難者 （町田駅周辺屋外滞留者）（人）	6,066	12,268
建物倒壊（全壊）（棟）	1,718	3,931
建物倒壊（半壊）（棟）	7,829	12,521
災害廃棄物（万トン）	70	120

※新たな被害想定で死者数及び避難者数が最も大きくなる冬の夕方風速8mで比較

新たな東京の被害想定の対象とした地震

- 東京の地下は、様々なプレートが沈み込む複雑な構造
- 新たな被害想定では、中央防災会議における見解や発生確率等を踏まえ想定地震を設定



※気象庁HPより

M7クラスの首都直下地震

- ✓ 都心南部直下地震 (M7.3)
- ✓ 多摩東部直下地震 (M7.3)
- ✓ 都心東部直下地震 (M7.3)
- ✓ 都心西部直下地震 (M7.3)
- ✓ 多摩西部直下地震 (M7.3)
 - ➡ 発生確率：約70%
(上記5地震など、南関東地域で発生するM7クラスの地震の発生確率)
- ✓ 立川断層帯地震 (M7.4)
 - ➡ 発生確率：0.5～2%

M8～9クラスの海溝型地震

- ✓ 大正関東地震 (M8クラス)
 - ➡ 発生確率：0～6%
- ✓ 南海トラフ巨大地震 (M9クラス)
 - ➡ M8～9クラスの発生確率：70～80%

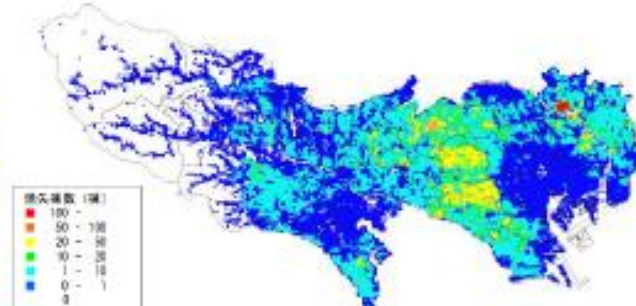
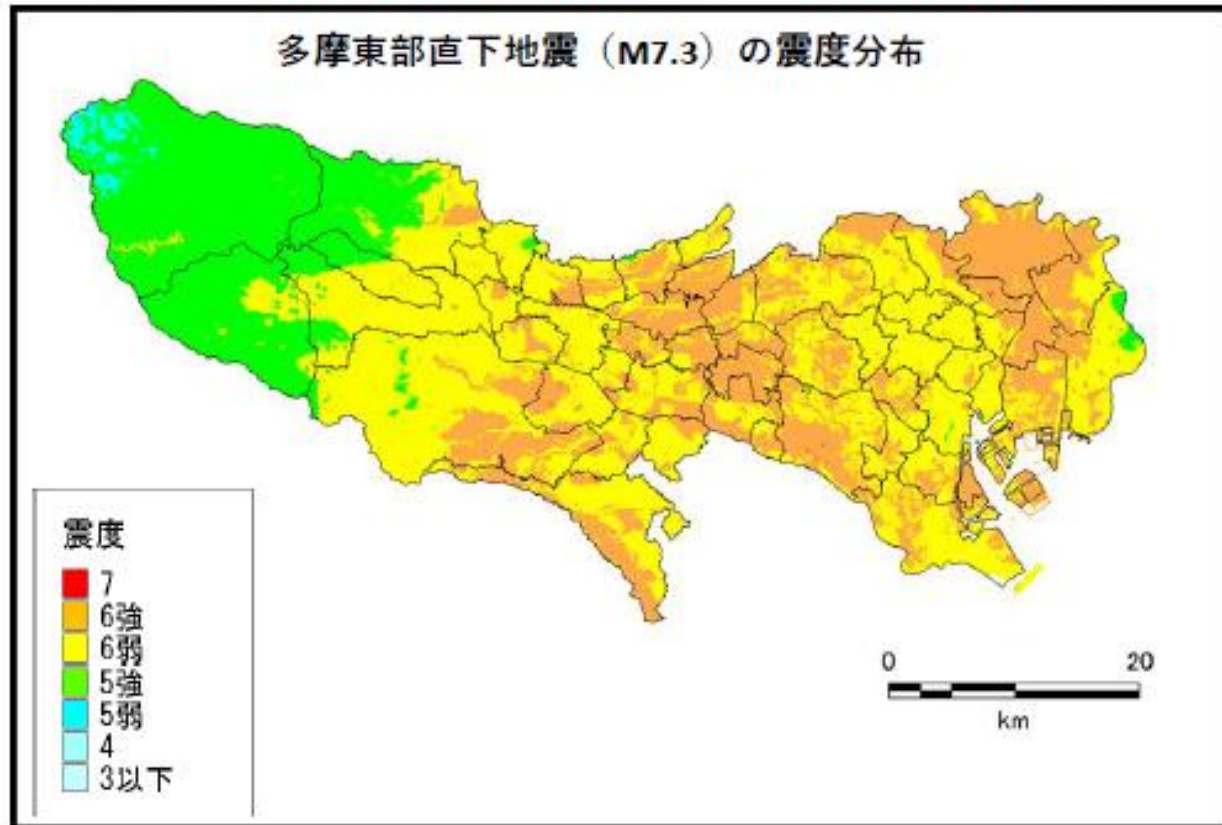
各地震について被害を想定し、防災対策に活用

- 直下型地震：総合的な防災対策
- 海溝型地震：津波対策



東京における被害想定（多摩東部直下地震）

- 多摩地域に大きな被害が想定され、震度6強以上の範囲は多摩地域の約2割に広がる。
- 建物被害は161,516棟、死者は4,986人と想定



冬・夕方（風速8m/s）

物的被害	建物被害	161,516	棟	
	要因別	揺れ等	70,108	棟
		火災	91,408	棟
人的被害	死者	4,986	人	
	要因別	揺れ等	3,068	人
		火災	1,918	人
	負傷者	81,609	人	
	要因別	揺れ等	74,341	人
		火災	7,269	人
避難者	約276万	人		

※揺れ等には、液状化、急傾斜地等の被害を含む。



身の回りで起こり得る災害シナリオと被害の様相①

～首都直下地震が発生すると…（インフラ・ライフラインの復旧に向けた動き）～

※被害の様相は一つの想定として作成したものであり、実際の災害時に、記録した被害の様相と必ずしも一致するものではないことに留意が必要

想定条件

マグニチュード7.3/冬/18時/風速8m/s

	被災者を取りまく様相	電力	上水道	下水道	ガス	通信	鉄道	道路
<p>発災直後～1日後</p> <p>3日後</p> <p>1週間後</p> <p>1か月後</p>	<p>発災後当面の間は、ライフライン寸断等、被災生活に大きな支障</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼液状化地域では、住宅の傾斜など、継続的な居住や日常生活が困難化 ▼長周期地震動により固定されていない本棚等が転倒したり、家具、ピアノ、コピー機等が大きく移動し、人に衝突 ▼本や食器、窓ガラス等が飛散し、ストーブ等の火気器具が転倒 ▼停電で住宅のエレベーターが停止 	<p>▼広範囲で停電が発生</p> <p>▼広い地域で計画停電が実施される可能性</p>	<p>▼断水が発生</p> 	<p>▼下水利用が制限</p> <p>▼排水管等の修理が終了するまで、集合住宅では、水道供給が再開してもトイレ利用が不可</p>	<p>▼一般家庭で使用される低圧ガスは、安全措置が作動し、広域的に供給が停止</p> <p>▼各家庭でも、震度5弱程度以上で自動遮断</p>	<p>▼音声通信やポケット通信の利用に支障</p> <p>▼輻輳により音声通話はつながりにくくなる</p> <p>▼メール、SNS等の大幅な遅配等が発生</p> <p>▼携帯基地局電源の枯渇により不通エリア拡大の可能性</p> <p>▼音声通信もポケット通信も利用困難が継続</p>	<p>▼点検や被災等で、都内のJR在来線、私鉄、地下鉄が運行停止</p>  <p>▼新幹線も運行停止し、都外からの来街者の多くが帰宅困難</p> <p>▼道路寸断や、交通規制、渋滞等により、バス等の代替交通による移動も困難</p>	<p>▼高速道路及び主要一般道において、交通規制が実施され、一般車両の通行が規制</p> <p>▼環状七号線の内側方向への流入禁止等の交通規制が実施</p> <p>▼ガソリンスタンドは当面向給油不能か長蛇の列</p>
	<p>▼ライフライン停止等により、空調やトイレ等が利用できない状態が継続</p> <p>▼品切れにより飲食物等生活必需品の確保が困難化</p>	<p>▼徐々に停電が減少</p> 	<p>▼断水の復旧は限定的</p>	<p>▼一部地域で下水利用が困難な状況が継続</p> <p>▼排水管等の修理が終了するまで、集合住宅では、水道供給が再開してもトイレ利用が不可</p> 	<p>▼低圧ガス管路の安全点検や復旧作業が終了せず、一部の利用者への供給停止が継続</p> 	<p>▼順次、通信が回復</p> <p>▼通信設備の被害状況によっては、電話やインターネット等通信が長期間に渡り不通となる可能性</p>	<p>▼復旧完了区間から順次運行が再開するが多くの区間で運行停止が継続</p> <p>▼橋脚などの大規模被害や線路閉塞、車両脱線等が発生した場合復旧まで1か月以上の期間が必要となる可能性</p>	<p>▼高速道路や主要道路で交通規制が継続</p> <p>▼通行可能な道路において、鉄道等の運休継続で車両利用が増え、慢性的な渋滞が継続</p>
	<p>▼ライフラインの状況により空調やトイレ等の一部が利用できない状態が継続</p> <p>▼電力が復旧しても、保守業者による点検が終了するまでは、エレベーターが使用できないため、復旧が長期化する可能性</p> <p>▼過剰な購買や買占めにより生活必需品の品薄状態が継続</p> <p>▼自宅の再建や修繕を望んでも、業者や職人等の確保が困難</p>	<p>▼発電所の停止など、電力供給量が不足し、電力需要が抑制されない場合などは、計画停電が継続する可能性</p>	<p>▼断水・濁水は段階的に解消されるが、浄水施設等の被災による断水は継続</p>	<p>▼多くの地域で利用制限解消</p> <p>▼排水管等の修理が終了するまで、集合住宅では、水道供給が再開してもトイレ利用が不可</p>	<p>▼安全点検の終了や管路の復旧により、建物倒壊や焼失など復旧困難エリアを除き多くの地域で供給が再開</p>	<p>▼高速道路や直轄国道等の主要路線は段階的に交通規制解除</p> <p>▼その他道路では段階的に閉塞や交通規制が継続する可能性</p> <p>▼土砂災害等により道路が寸断された場合復旧までは数か月以上を要する可能性</p> <p>▼羽田空港等は、徐々に一般利用者の輸送を再開</p>		
		<p>▼建物倒壊や焼失など復旧困難エリアを除き、安全点検の終了や管路の復旧により、多くの地域で供給が再開</p>	<p>▼断水は概ね解消するが、浄水施設等が被災した場合、断水が長期化する可能性</p>	<p>▼多くの地域で利用制限解消</p> <p>▼排水管等の修理が終了するまで、集合住宅では、水道供給が再開してもトイレ利用が不可</p>	<p>▼安全点検の終了や管路の復旧により、建物倒壊や焼失など復旧困難エリアを除き多くの地域で供給が再開</p>	<p>▼復旧完了区間から順次運行が再開するが多くの区間で運行停止が継続</p> <p>▼橋脚などの大規模被害や線路閉塞、車両脱線等が発生した場合復旧まで1か月以上の期間が必要となる可能性</p>	<p>▼高速道路や主要道路で交通規制が継続</p> <p>▼通行可能な道路において、鉄道等の運休継続で車両利用が増え、慢性的な渋滞が継続</p>	

◆ 発災後当面の間は、ライフラインや公共交通機関など、身の回りの生活環境に大きな支障が生じるとともに、被害が甚大な場合は、その復旧が長期化するおそれ



身の回りで起こり得る災害シナリオと被害の様相②

～首都直下地震が発生すると…（救出救助機関等による応急対策活動の展開）～

※被害の様相は一つの想定として作成したものであり、実際の災害時に、記録した被害の様相と必ずしも一致するものではありません。

想定条件

マグニチュード7.3/冬/18時/風速8m/s

応急対策活動を取りまく様相

発災直後

大規模地震の発生を受け、全国からの応援とともに、警察・消防・自衛隊等の関係機関による救出救助等の応急活動が、各地で展開される。

- ▼耐震性の低い木造建物やビル・マンションの倒壊等が発生し、多数の閉じ込めが発生
- ▼住宅や事業所の火気・電気器具等から出火し、**同時多発火災が発生**。鎮火まで24時間以上必要（特に**木造住宅密集地域**では被害が顕著）
- ▼火災旋風や強風下での地震が発生した場合、飛び火等によりさらなる広域延焼が発生する可能性
- ▼タンク等から可燃性物質の漏洩等による出火が発生する可能性
- ▼落橋等により、列車や車の事故、転落等が発生する可能性
- ▼斜面崩壊が発生し、**道路寸断による集落の孤立等発生**の可能性



出典：東京消防庁

1日後

- ▼強い余震により、本震で倒壊しなかった建物の倒壊など、被害拡大の可能性
- ▼復電時の電気機器のショートなど、**通電火災等が発生**する可能性
- ▼周辺道路の障害物が除去されていない場合、消火活動が妨げられ鎮火が遅れる可能性
- ▼強い余震や集中豪雨等が発生した場合は、より大規模な斜面崩壊等が発生し、被害が拡大する可能性
- ▼高齢者や既往症を持つ人などが、避難所等の慣れない環境での生活により、病状が悪化し、**死亡する事例が増加（震災関連死）**

3日後

- ▼強い余震が発生した場合、本震では倒壊しなかった建物が倒壊するなど、さらなる被害拡大の可能性
- ▼地震後に豪雨等が発生した場合は、より大規模な斜面崩壊や地すべり、土石流が発生し、被害が拡大する可能性
- ▼高齢者や既往症を持つ人などが、避難所等の慣れない環境での生活により、病状が悪化し、**死亡する事例が増加（震災関連死）**

1週間後

1か月後

道路、輸送拠点等

- ▼橋梁等の被害、沿道建物や電柱等の倒壊、道路沿線での延焼火災、液状化に伴う段差、トンネルの天井落下等の被害が発生し、**至る所で道路寸断が発生し、被害状況の確認や救出救助、消火活動等が困難化**
- ▼停電に伴う信号機等の滅灯により、交通事故や渋滞が多発し、**緊急通行車両の移動が困難化する可能性**
- ▼施錠したまま放置された車両が、渋滞の助長や緊急通行車両の活動の妨げとなる可能性
- ▼道路啓開で生じた障害物を道路上に仮置きするため、車線が限定され、**救出救助活動等の遅延が発生**
- ▼空港は、滑走路等、航空機の発着に支障がある被害を確認するため一時閉鎖
- ▼多数の避難者、帰宅困難者等が公園やグラウンド等に滞留し、ヘリコプターの離発着に使用できない可能性



- ▼高速道路や国道、都道等の主要道路は、**一部で通行不能区間が残るが、緊急輸送道路の啓開は概ね完了**
- ▼**細街路が多い地域**等では、障害物等の撤去が進まず、救出救助活動や物資や医療搬送等への影響が継続
- ▼空港は支障がないと判断され次第、直ちに緊急輸送ネットワーク拠点として運用（被害が深刻な場合は利用開始が遅延）
- ▼道路被害や渋滞、港湾の被害の影響により、燃料供給が遅滞した場合、**災害対応車両等への燃料が不足する可能性**



- ▼高速道路及び直轄国道等の主要路線で段階的に交通規制が解除
- ▼生活道路等において、道路管理者や周辺住民による**道路啓開が徐々に進展**
- ▼被害が多いと、重機等がすべての現場に行き渡らず、**道路の啓開作業等が長期化**
- ▼土砂災害等により道路が寸断された場合、復旧までは数か月以上を要する可能性
- ▼羽田空港等は、救出救助活動や物資輸送拠点として運用を継続しつつ、徐々に一般利用客の輸送を再開



通信

- ▼電話通信が大量に発生し、通話の輻輳が生じるが、一般通話を制御することで、**警察、消防や災害対策本部等の重要な通信は優先的に確保**
- ▼多くの基地局で非常用電源が枯渇し、**不通地域がさらに拡大**

- ▼計画停電が実施される場合、基地局の停波等により、さらなる通信障害が発生する可能性

- ▼停電継続地域において、交換機等の非常用発電機の燃料が枯渇した場合、**通信確保が困難化**

◆ 道路などの緊急輸送ルートが確保できない場合、応急対策人員・物資の円滑な移動・活動が困難を極め、救出救助や被災地支援が遅滞し、長期化するおそれ



身の回りで起こり得る災害シナリオと被害の様相③

～首都直下地震が発生すると…（避難所での避難生活）～

※被害の様相は一つの想定として作成したものであり、実際の災害時に、記録した被害の様相と異なる事象が発生するのではないことに留意が必要

想定条件

マグニチュード7.3/冬/18時/風速8m/s

	避難所をとりまく様相	電力・通信	飲食・物資	トイレ・衛生
発災直後～1日後	<p>自宅が揺れに伴い損傷を受け、ライフラインも不通になったため、避難所へ避難する。</p> <p>▼避難者に加え帰宅困難者も避難所に殺到し、収容力を越える事態が発生</p> <p>▼停電や通信の途絶等により、避難者数の把握や安否確認、必要な物資の把握が困難化</p> <p>▼住民同士のつながりが希薄な地域では、助け合いが進まず、避難所の運営等が混乱するおそれ</p>	<p>▼スマートフォン等のバッテリーが切れ、家族との連絡等が困難化</p> <p>▼多くの携帯基地局で非常用電源が枯渇し、不通地域がさらに拡大</p> <p>▼利用可能地域でも輻輳により、携帯電話の通話がつながりにくくなる</p> <p>▼メール、SNS等の大幅な遅延等が発生</p>	<p>▼備蓄により飲用水が確保されるが給水車による給水は限定的</p> <p>▼臨時の避難所等を把握できず、食料や救援物資等が配給されない事態が発生</p> <p>▼避難所外避難者等が飲食物を取りに訪れるため、避難所物資が早期に枯渇する可能性</p>	<p>▼管理等が適切に行われず、避難所や仮設トイレの衛生環境が急速に悪化する可能性</p> <p>▼特に夏季においては感染症の発生につながる可能性</p> <p>▼汲み取り式のトイレでは、バキュームカーの不足等で早期に使用が困難化</p>
3日後	<p>▼在宅避難者の家庭内備蓄が枯渇し、時間経過とともに避難所への避難者が増加</p> <p>▼必要なスペースや物資の確保等のケアが行き渡らず避難者のストレスが増加</p> <p>▼ごみ・し尿処理収集の遅れにより、生活ごみやし尿が回収されず避難所衛生状態が急速に悪化</p> <p>▼過密やプライバシー欠如、劣悪な衛生環境等を忌避し、屋外に避難する避難者が発生</p>	<p>▼発電機の燃料が枯渇した避難所等では、テレビやスマートフォンによる情報収集や、照明、空調等の利用が困難化</p>	<p>▼道路被害や渋滞等により、必要なタイミングで必要量の物資を供給することが困難化</p> <p>▼段ボールベッド等、要配慮者の避難所生活環境改善に資する物資が不足</p>	<p>▼燃料が枯渇した場合、非常用電源で機能していた水洗トイレが機能を停止し、使用困難化</p>
1週間後	<p>▼高齢者や既往症を持つ人等が、慣れない環境での生活により病状が悪化する可能性</p> <p>▼プライバシー不足や生活ルール、ペット等に関するトラブル増加</p> <p>▼避難所へ避難していた避難者が、自宅等へ戻り始める</p> <p>▼道路寸断や交通機関の状況の違い等により、支援物資やボランティアの供給にばらつきが発生</p>	<p>▼計画停電が実施される場合、基地局の停波等により、さらなる通信障害が発生する可能性</p> <p>▼停電により空調が利用できず、熱中症や脱水症状になったり、寒さから風邪をひく等、体調を崩す可能性</p>	<p>▼必要とする情報や物資等が変化・多様化し、行政が避難者のニーズに対応しきれなくなる</p>	<p>▼衛生環境が悪化した場合に、インフルエンザ、新型コロナウイルス、ノロウイルス等の感染症が蔓延する可能性</p> <p>▼清掃が行き届かず、ほごりが舞うことによって気管支炎を発症し、特に喘息等の既往症を有する人は症状が悪化する可能性</p>
1か月後	<p>▼高齢者や既往症を持つ人などが、慣れない環境での生活により病状が悪化する可能性</p> <p>▼避難者、特に外国人など、生活習慣や文化等が異なる人たちの精神的負担が増大</p> <p>▼ライフライン復旧や交通機関再開に伴い、避難者が自宅や親戚・知人宅、応急仮設住宅等に移り、避難者数が減少</p> <p>▼自宅や他の避難先等へ移動した避難者の所在把握が困難化</p>		<p>▼物資不足が長期化した場合、略奪や窃盗など、治安の悪化を招く可能性</p>	

◆被害が甚大な地域での避難所生活は、発災直後の混乱のみならず、電力・通信、飲食・物資、トイレ・衛生など、様々な課題が発生し、時間を追うことに多様化



身の回りで起こり得る災害シナリオと被害の様相④

～首都直下地震が発生すると…（住み慣れた自宅等での避難生活）～

※被害の様相は一つの想定として作成したものであり、実際の災害時に、記録した被害の様相と異なる被害が発生するものではないことに留意が必要

想定条件

マグニチュード7.3/冬/18時/風速8m/s

自宅をとりまく様相

電力・通信

飲食・物資

トイレ・衛生

発災直後

強い揺れが襲い、ライフラインも不通となったが、幸いにも自宅は大きな被害もなく、周囲も火災などの危険はない。また、備蓄もある程度していたため、在宅避難を開始することに。

▼大きな揺れや長周期地震動により、中高層階を中心に歩くことが困難化。未固定の本棚の転倒や、キャスター付きの家具やコピー機等の移動で人に衝突



▼マンションの中高層階ではエレベーターの停止により地上との往復が困難となり、十分な備えがない場合、在宅避難が困難化



▼液状化が発生した地域では、住宅の傾斜や断水の発生等により居住が困難化

▼自宅の片づけ等のために一時帰宅した際に、大きな余震が発生すると、本震で脆弱化していた建物の倒壊等により、死傷者が増加する可能性

1日後

▼家庭内備蓄が枯渇し、時間経過とともに避難所への避難者が増加

▼大きな余震が続く場合、在宅避難者が不安等を感じ、屋外に避難するが、冬季は体調悪化による被害の拡大が懸念



▼生活ごみや片付けごみが、回収されずに取り残されたり、不法に捨てられたりして、悪臭などの問題が発生

3日後

▼心身機能の低下により、生活不活発病となるなど、体調を崩す人が増加

▼電力が復旧しても、保守業者による点検が終了するまでは、エレベーターが使用できず、復旧が長期化する可能性

1週間後

▼心身機能の低下により、生活不活発病となるなど、体調を崩す人がさらに増加

▼自宅の再建や修繕を望んでいても、建設業者や職人等が確保できない可能性



1か月後

▼需要を抑制し、供給とのバランスを図るため、広い地域で計画停電が実施される可能性

▼多くの携帯基地局で非常用電源が枯渇し、不通地域がさらに拡大

▼利用可能地域でも、輻輳により、携帯電話の通話がつながりにくくなる

▼メール、SNS等の大幅な遅延等が発生

▼停電が発生した地域では、電源を利用する電話機（留守番電話、光回線利用型電話等）や、インターネット通信機器（ルーター等）は使用不能

▼発電所の停止など、電力供給量が不足し、利用の自粛が不十分な場合や電力需要が抑制されない場合、計画停電が継続される可能性

▼計画停電が実施される場合、基地局の停波や、自宅のWi-Fi設備の機能停止により、さらなる通信障害が発生する可能性

▼停電が継続する地域では、電源を利用する電話機（留守番電話、光回線利用型電話等）や、インターネット通信機器（ルーター等）は使用不能

▼停電により空調が使用できず、熱中症や脱水症状になったり、寒さから風邪をひく等、体調を崩す可能性

▼スーパーやコンビニで、飲食料や生活必需品等が売り切れ、物資を確保することが困難化

▼避難所外避難者等が、飲食料を受け取りに来るため、避難所の物資が早期枯渇する可能性

▼応急給水拠点に、多数の住民が殺到し、長蛇の列となり、夏場などに炎天下で給水を待つ住民が熱中症などになる可能性



▼高架水槽を設置する住宅では、水道が供給されていても、停電や計画停電が継続した場合、揚水できず、水道が使えない状態が継続する可能性



▼道路啓開やサプライチェーン復旧の状況により、地域ごとに店舗での品ぞろえに偏りが生じる可能性

▼余震等への不安などから過剰な購買行動が発生し、慢性的な品不足が継続する可能性

▼受水槽や給水管など、住宅内の給水設備が被害を受けた場合、断水が継続し、復旧が長期化する可能性

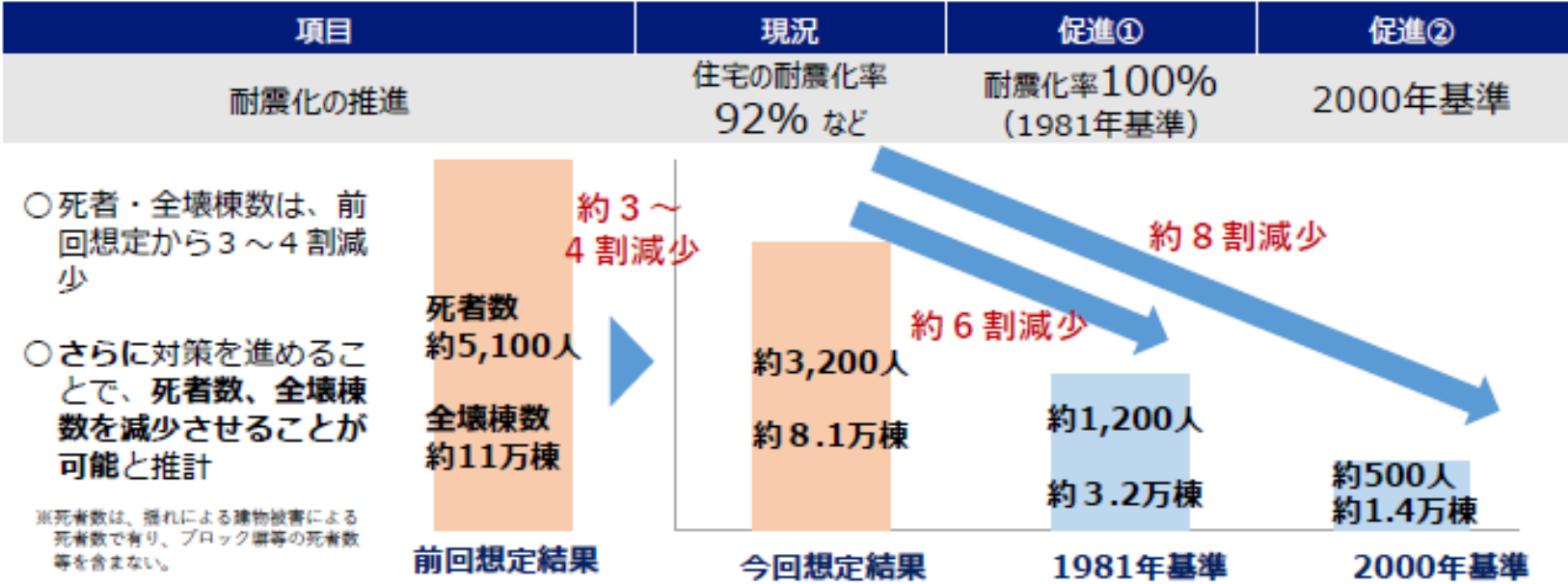
◆自宅が安全な場合、日頃から十分に備えておくことで住み慣れた自宅に留まることは有効だが、ライフライン復旧が長期化した場合、生活が徐々に困難化していく



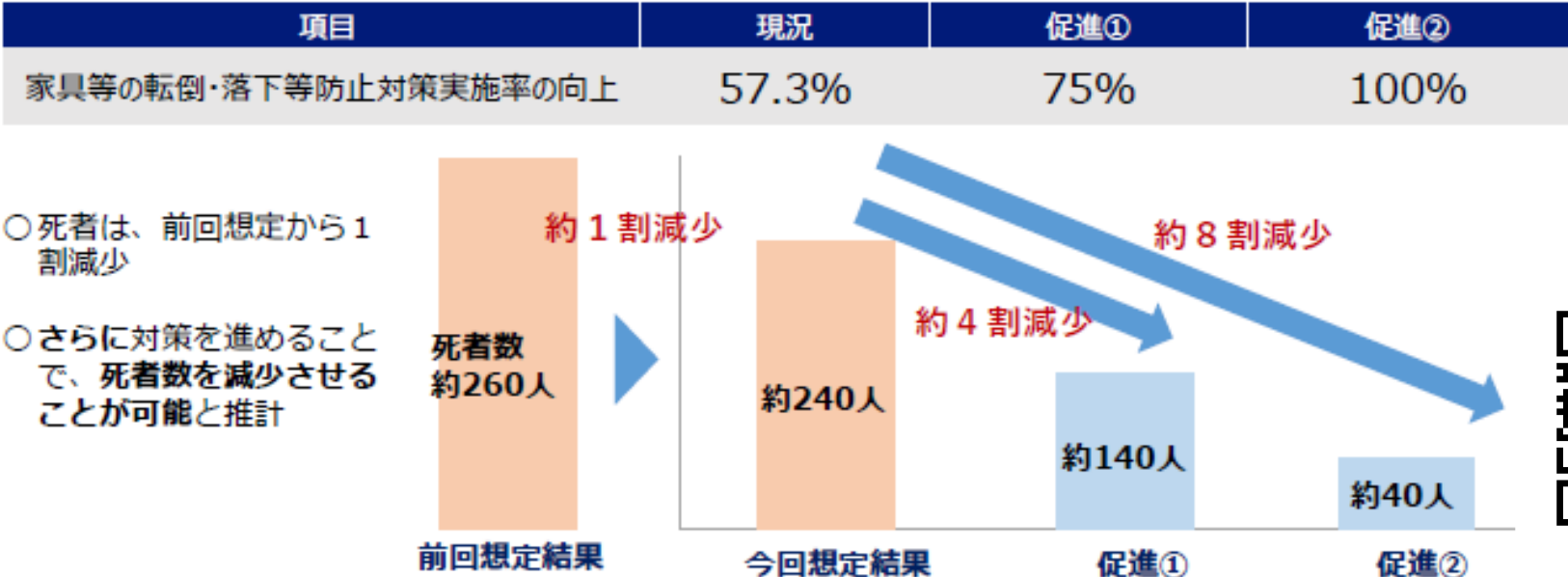
防災・減災対策による被害軽減効果 (冬・夕方/風速8m/s)

○ 建物耐震化等の現況に基づく被害量から、今後対策を進めた場合の被害軽減効果を推計

耐震化の推進



家具転倒防止対策



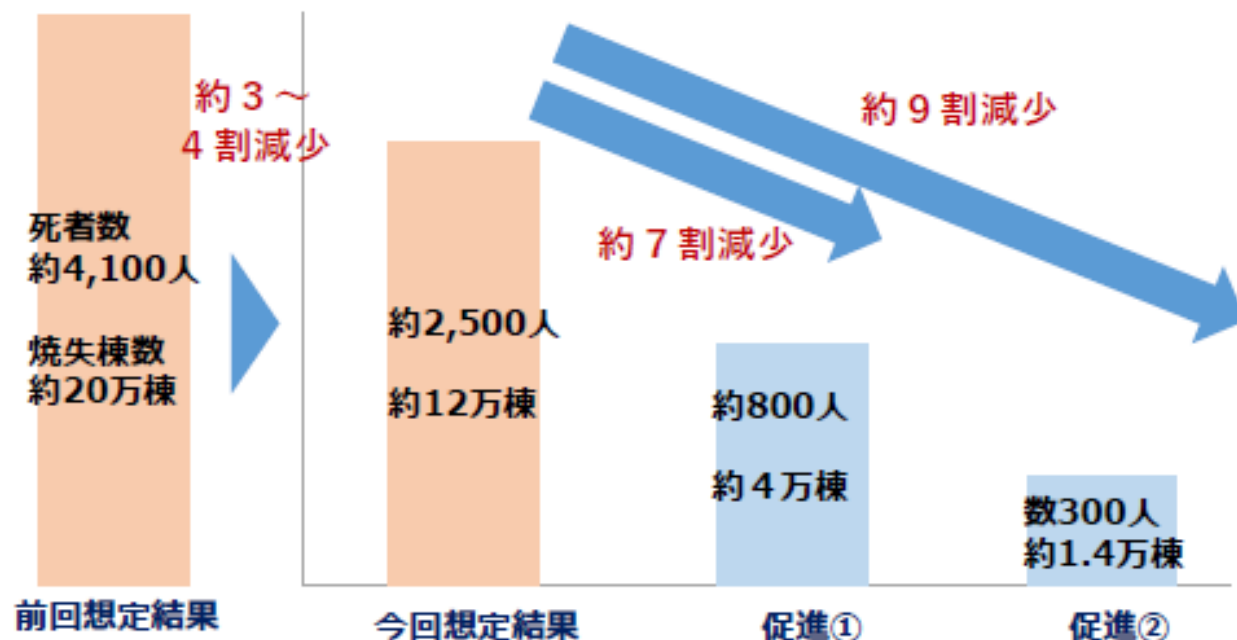
防災・減災対策による被害軽減効果 (冬・夕方/風速8m/s)

○ 建物耐震化等の現況に基づく被害量から、今後対策を進めた場合の被害軽減効果を推計

項目	現況	促進①	促進②
(1) 電気を要因とする出火の低減	8.3%	25%	50%
(2) 初期消火率の向上	36.6%	60%	90%

出火防止 対策の 推進

- 死者・焼失棟数は、前回想定から3～4割減少
- さらに対策を進めることで、死者数、焼失棟数を減少させることが可能と推計



※焼失棟数は揺れ等による被害との重複除去を行う前の値

各種対策を推進することにより、被害を大幅に軽減することが可能



防災WEBポータル



平時においては、市内の天気や気象情報、ハザードマップを掲載しておりますので、災害時に役立つ各種情報を収集することができます。

災害時においては、避難情報や避難施設の開設状況等の防災に関する情報を迅速かつ確実に情報発信します（6月1日から運用開始）。



■ 画面イメージ

The screenshot shows the防災WEBポータル website. At the top, there is a navigation bar with the site title and a language selection dropdown. Below this, there is a weather forecast section for 町田市, showing today's and tomorrow's weather with temperature ranges and precipitation probabilities. The main content area is divided into several sections: 緊急情報 (Emergency Information), 気象情報・地震情報等 (Weather and Earthquake Information), お知らせ (Notice), 公開文書フォルダ (Public Document Folder), 避難情報 (Evacuation Information), 避難施設情報 (Evacuation Facility Information), and 関連サイトリンク集 (Related Site Link Collection). Each section has a '一覧' (List) button. The 避難施設情報 section includes a search interface with options to search by current location, name, or map, and a note about the evacuation status being set to 'Default'.

まちだ防災カレッジ



- ◆ 連絡会での議事録内容の公開を始めました。
→役員以外の地域の皆様にも避難施設での取り組みの状況を共有することで、避難施設運営のレベルアップにつなげます。
- ◆ 地域の課題解決に取り組んでいます。
→2022年度、高ヶ坂防災フェスタ、DANCHI Caravan in 町田山崎で在宅避難をテーマに地域と連携しました。



町田市の防災が、ここでわかる!!



#まちだ防災カレッジ
<https://www.machida-bousai-college.com>

まちだ防災カレッジ 検索



まちだ防災カレッジ



ホーム まなぶ とりくむ **地域** アンバサダー PC画面

①



まちだ防災カレッジ

MACHIDA BOUSAI COLLEGE

 町田市71の活動状況（避難施設関係者連絡会など）を随時掲載していきます。また、発信したい情報等がございましたら、防災課までお知らせください。ぜひ、他の地域の取り組みについてもご覧ください。※個人情報にかかわる記載については、削除をしています。

②

TOP

町田第一地区	町田第二地区	玉川学園・南大谷地区	南地区	高ヶ坂・成瀬地区
籠川地区	本曾地区	忠生地区	小山地区	相原地区

町田第一地区 → 「町田第一地区」のHPは[こちら](#)

町田第二小	町田第二中
-----------------------	-----------------------

町田第二地区 → 「町田第二地区」のHPは[こちら](#)

町田第一小	町田第一中	町田第三小	町田第四小	本町田東小
-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------

まちだ防災カレッジ



高ヶ坂防災フェスタ

DANCHI Caravan in 町田山崎

災害時の流さないトイレ

- 災害時には、断水や停電で、トイレが使えなくなるかもしれません。
- 特にマンションの場合は、備蓄の水で汚物を流しても、排水管が壊れていたら途中で管が詰まってしまい、下層階で溢れてしまうことがあります。
- 大きな地震が起きた時には、まずは水を流さないトイレができるように、身近な物も活用して備えておきましょう。

ポイント1

トイレ1回あたりの尿の量は
約コップ1杯

ポイント2

1日にトイレに行く回数は
大人で平均
4~8回程度

ポイント3

1日の総排便量は
牛乳パック
1~2本

ポイント4

1日の総排便量は
バナナ2本分
程度の便
(約250g)

水を流さないトイレを使ってみよう!

用意するもの 45ℓのごみ袋(2枚)、養生テープ、防臭袋、除菌シート、凝固剤(新聞紙、ペットシート、オムツなど)

手順1

便座を上に向け、ごみ袋を被せ、テープで固定します(水漏れ防止)。

手順2

もう1枚のごみ袋を被せて、便座を下げます。

手順3

凝固剤を入れた後、トイレをします。

手順4

トイレの後は、必ず1人1回ごとに2枚目のごみ袋を取り替えましょう。汚臭の原因になります。



※凝固剤によっては、トイレの後から投入するタイプもあります。

my action

あなたの家庭に必要な災害用トイレのセット数を確認しましょう。

● トイレに行く回数()回×()日×()人家族×()日分= mℓ

今あるものにをつけて、買い足す物を確認しましょう。

- 凝固剤(新聞紙、ペットシート、オムツなどでも代用可)
- ごみ袋(45Lサイズ、黒がおすすめ!)
- 防臭袋 除菌シート

メモ

町田山崎団地

「ぼうさいお片付け」で在宅避難のすすめ

災害に強い家や部屋にするため「ぼうさいお片付け」を通して安全・安心な家にしませんか。大地震が起きた時、電気、ガス、水道が止まっても、家が安全なら、自宅で避難生活をする「在宅避難」が出来るようにしましょう。

「ぼうさいお片付け」とは・・・

・衣服の分別や子どもが預けた本などを処分し、水や食料などの備蓄品を置いたり生活できる空間をつくる。
・よく使う食器やお気に入りの食器だけ残して、割れて危険な物を少なくする。
・タンスや食器棚の配重の見直しや買い替えのついでに、家具が転倒しないよう固定する。 など

日常の掃除や整理・整頓、大掃除の時に、誰でも取り組める減災活動です。

とはいえ・・・

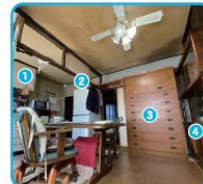
- 一人でも整理整頓するのは気が重い
- 片付けた後の、重たいごみや大きい物を運べない
- 家具は重たくて自分たちだけでは動かせない
- 家員固定のネジや用具を取り付ける方法がわからない

自治会と連携して、山崎団地にお住まいのKさんが「ぼうさいお片付け」にチャレンジしました!



Kさん(50代) 山崎団地にお一人でお住まい

山崎団地に50年住んでいます。物があると思えば増えたので片付けをしたいのですが、重たいごみを外に運ぶのは大変だと思っていました。リビングが個室を兼ねているので、安全な部屋にしたいです。



- #### ぼうさいお片付けチェック!
- 1 食器吊戸棚のガラスが割れて怪我をする
 - 2 冷蔵庫が倒れたら、玄関まで行けない
 - 3 タンスが倒れて下敷きになると動けない
 - 4 食器が飛び出して割れたら怪我をする
 - 5 靴箱が倒れたら外に避難できない
 - 6 不用品は廃棄して空間を確保

▶ お片付けの詳細は裏面をご覧ください

まずは、日中つくる空間でもあり個室でもあるリビングを安全・安心な空間にしたいです!



減災アドバイザー 鈴木さん

一般社団法人減災ラボ、博士(工学) 被災地の避難施設が豊富、自宅マンションを減災リノベーションしたばかり。

まちだ防災カレッジ

MACHIDA BOUSAI COLLEGE



自治会からの紹介だったので安心してチャレンジできました。



モノを減らすことや部屋の片付けが、安全な家づくりの最初の一歩ですね。



重たいごみの廃棄などは助かりました。片付けた部屋を見て、危ない所があったと気づきました。安全な家になりました。安心して暮らしたいです。



災害時にライフラインが止まっても住み慣れた家で生活できるように、最低限3日分の水や食料を備えておきましょう。



皆さんも不要品や断片物が多い台所だけでも、ぼうさいお片付けをやってみてください。

今回調べた費用(約): 片付けサポート15,000円 家具固定12,000円(3箇所) 不用品の廃棄10,000円

町田山崎団地版「ぼうさいお片付け」を一気に取り組んだメンバー

プラスハート

☎ 042-793-1238

ネコサボ

☎ 0120-545425

ブックオフ

☎ 042-739-4590

【参考】

「家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック」転倒等の防止対策を正しい方法で効果的に行うためのポイントが具体的に紹介されています。

市の態勢（風水害）



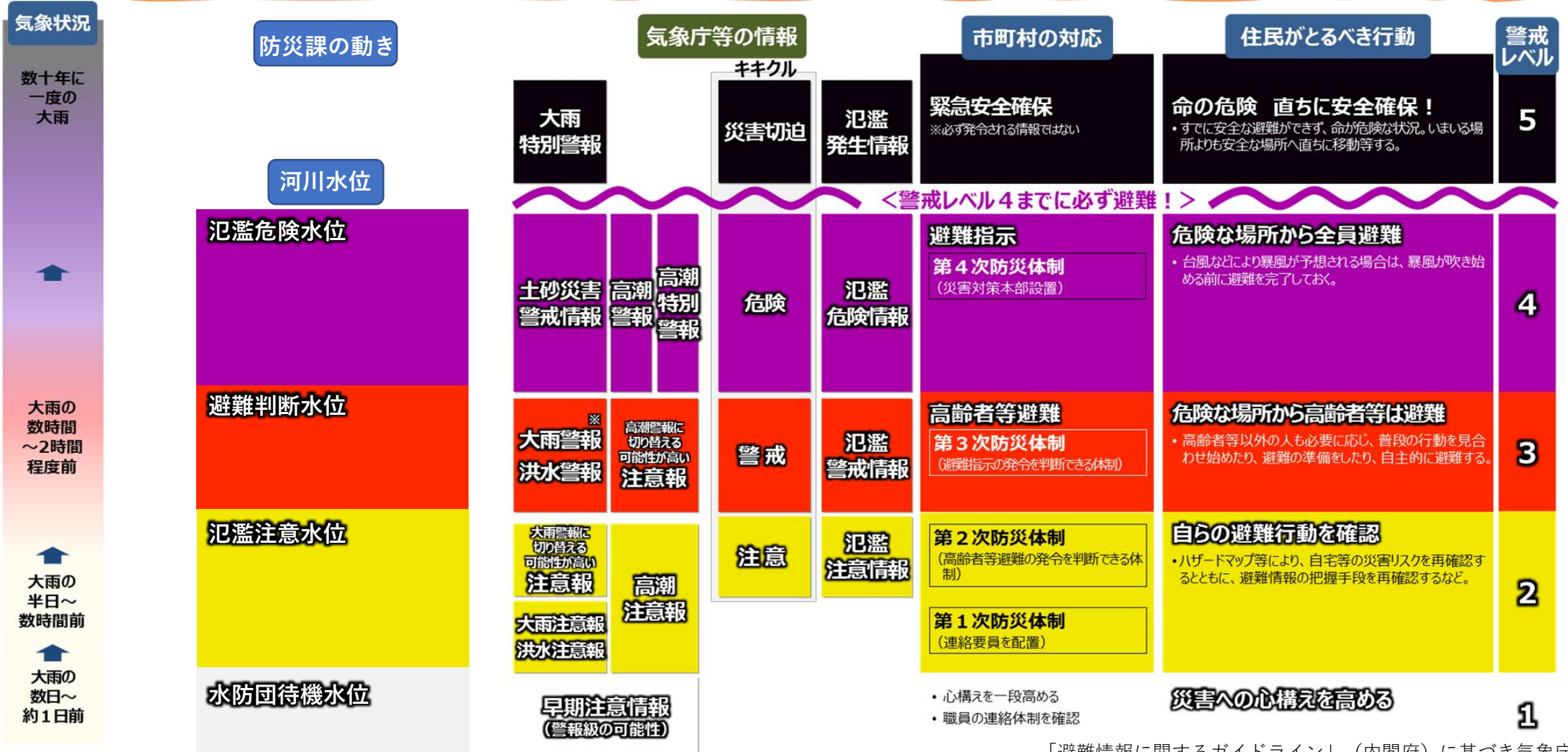
- 2016年 8月 台風第9号【大雨・洪水警報、土砂災害警戒情報】
避難勧告発令：29避難施設を開設、最大で273名が避難
- 2017年 10月 台風第21号【大雨・洪水警報、土砂災害警戒情報】
避難勧告発令：26避難施設を開設、最大で135名が避難
- 2018年 7月 台風第12号【大雨警報】
避難準備・高齢者等避難開始発令：26避難施設を開設、51世帯95名が避難
- 2019年 9月 令和元年台風第15号【大雨・洪水・暴風警報】
避難準備・高齢者等避難開始発令：25避難施設を開設、87世帯144名が避難
- 〃 10月 令和元年台風第19号【大雨・洪水・暴風警報、土砂災害警戒情報】
避難勧告発令：34避難施設を開設、1,429世帯 3,085名が避難
- 2021年 8月 大雨対応【大雨警報（浸水・土砂災害）・洪水警報・土砂災害警戒情報】
避難指示発令：22避難施設を開設、最大で65名が避難



2016年8月 台風9号（境川の様子）

市の態勢 (風水害)

※夜間～翌日早朝に大雨警報（土砂災害）に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3（高齢者等避難）に相当します。



DISASTER PREPAREDNESS TOKYO
東京防災
 とうきょう
東京
マイ・タイムライン



雨ニモマケズ
 嵐ニモマケズ



短時間の急激な豪雨が発生するとき!

警戒レベル 1 2 3 4 5

大雨が長引くとき!

警戒レベル 1 2 3 4 5

台風が近づいているとき!

警戒レベル 1 2 3 4 5

避難指示

高齢者等避難

大雨に関する緊急情報
 大気に関する緊急情報
 風に関する緊急情報

高潮に関する緊急情報
 河川の氾濫に関する緊急情報
 土砂災害に関する緊急情報

必要な情報
 河川の氾濫に関する緊急情報
 土砂災害に関する緊急情報

私と家族
 行動
 地域

災害発生又は切迫
 避難する場所



地域によってリスクは異なります。
 地域や組織ごとにセミナー開催可能ですので、ぜひお申し込みください。

市の態勢（地震災害）



◆ 震災時の職員の参集段階(震度別)



町田市の被害想定や予防に関する計画の他、災害ごとの市の態勢について書かれています。マニュアルというよりは、辞書的な扱いです。

町田市地域防災計画
(2020年度修正)



町田市防災会議

指定職員



【平常時】

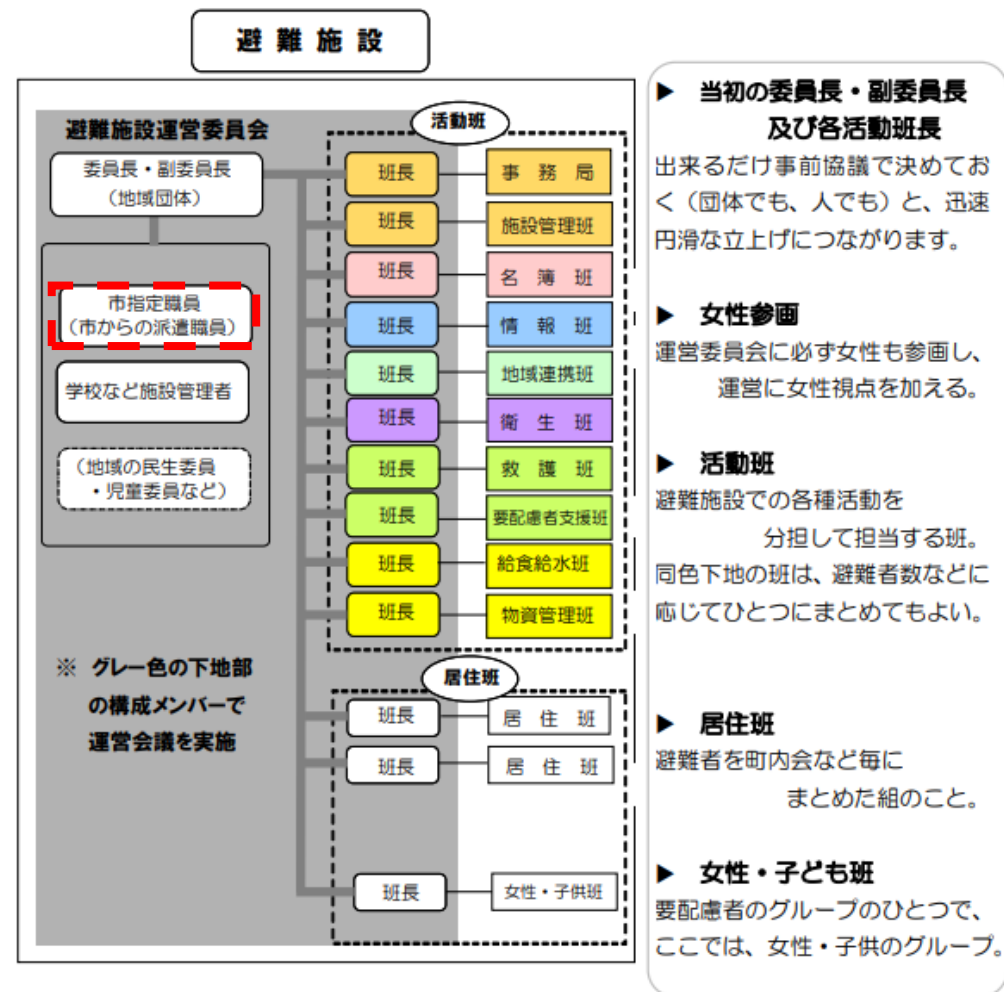
避難施設関係者連絡会及び開設訓練への参加

各避難施設で実施する避難施設開設訓練では、資機材操作の住民への指導や資機材の仕様説明を行うなど、必要に応じて訓練の補助を行います。

【発災時：市内で震度6弱以上の揺れを観測した場合】

7 2 時間（3日間）の避難施設の運営にあたります。

△ 避難施設での対応は交替の職員が到着するまで続きます。



モデルマニュアルの活用



町田市町内会・自治会連合会が作成した避難施設運営モデルマニュアルはこちら (<https://machida-shiren.com/rengokai/474/>) からご覧いただけます。

事前準備編

事前準備が「いざというとき」を支えます。

避難・開設・運営編

混乱が予想される中で、事前に準備をしてきた人を中心にスタートし、避難者自らの取組移行していきます。

マニュアル・シート編

各種活動班と、その具体的な作業内容を示しています。



感染症対策（2023年5月時点）



- ◆ マスクの着用について
2023年3月13日から「個人の判断に委ねる」がベース
ただし、避難施設の混雑状況、避難者の年齢層、感染拡大状況による
- ◆ 事前受付
従来通り、2段階（事前受付及び本受付）での受付を推奨します
- ◆ スペースについて
2m×2mを一区画とする（プライバシーの観点）

過去の災害における状況



<過去の災害の状況>

・避難所運営の意思決定の場に女性が少なかったため、女性の声・ニーズが重視されず、また、女性が声を上げづらい状況がありました。

例) 避難所での着替えや授乳の問題

・女性は災害時、家事、子育て、介護といった家庭的責任の負担が増え、悩みを抱えることがありました。

例) 子供を保育所に預けられなくなり、仕事を続けることが困難になった女性

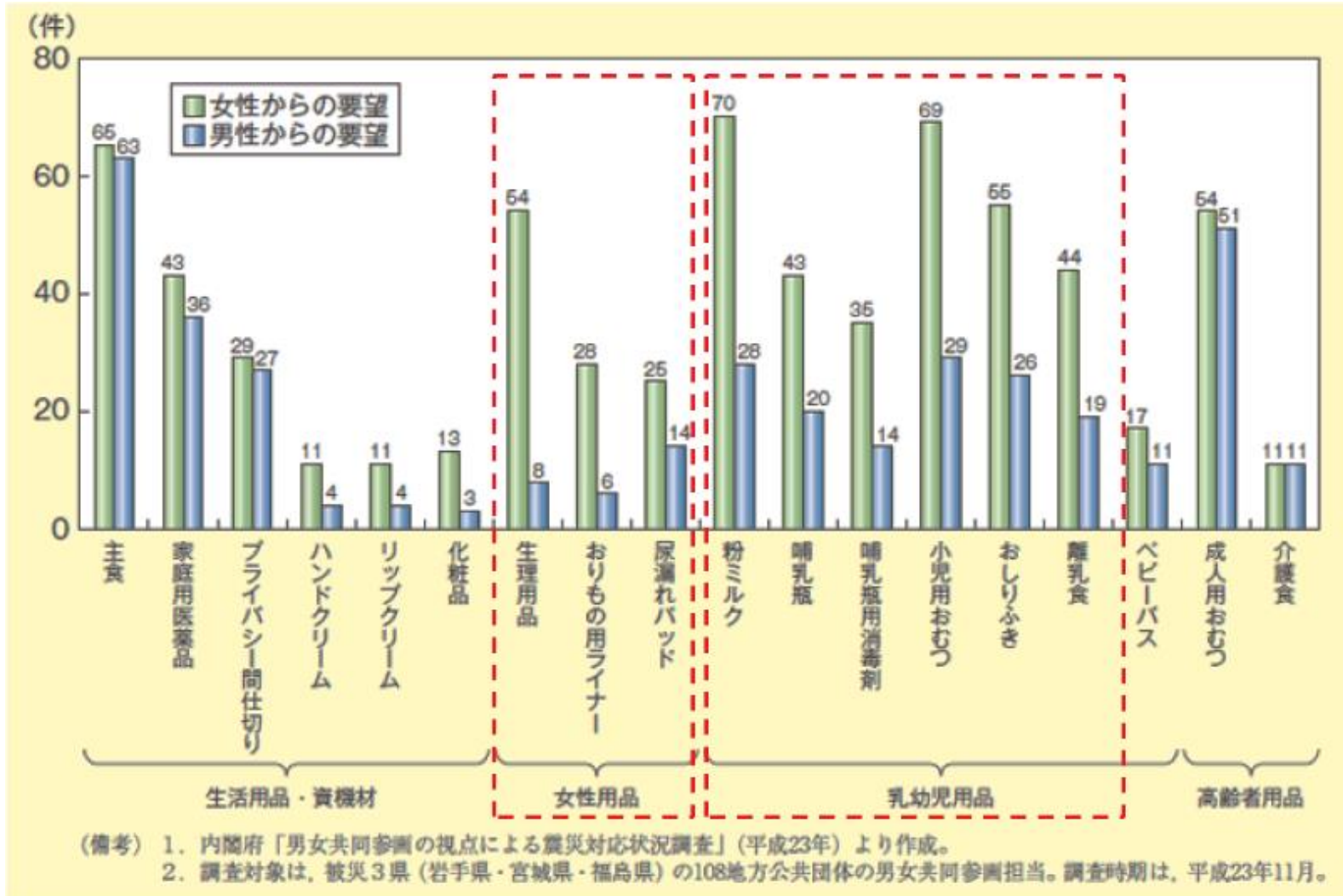
・男性は家族や地域を支え、守るのは自分の役割であるとして、その責任を抱え込むということがありました。

例) 発災後、避難所運営のリーダーとして、休むことなく働き続けた町内会長



※東京都防災ホームページ：東京都女性人材育成テキストより (<https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/kyojyo/1005416/1005791.html>)

過去の災害における状況



※東京都防災ホームページ：東京都女性人材育成テキストより

(<https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/kyojyo/1005416/1005791.html>)

トイレ問題



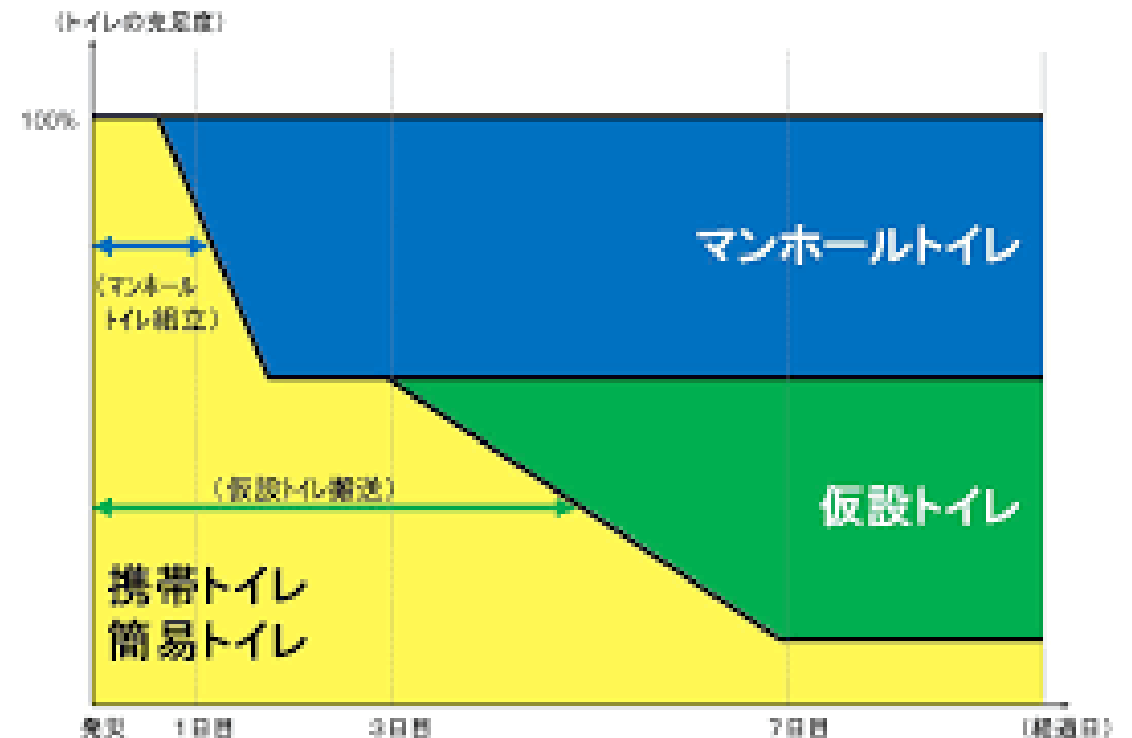
時間経過に応じて、複数種類の災害用トイレを活用することを基本として、平時から災害時のトイレ確保・管理を行います。

トイレ対策のポイント

- ・トイレ対策の**司令塔**を明確にすること。
- ・時間経過に応じて**複数種類の災害用トイレ**を備えること。

トイレの個数（目安）

- ・災害発生当初は、**約50人当たり1基**
- ・避難長期化の場合は、**約20人当たり1基**
- ・トイレの平均的な使用回数は、**1日5回**
- ・男女比は**男性：女性 = 1：3**が目安

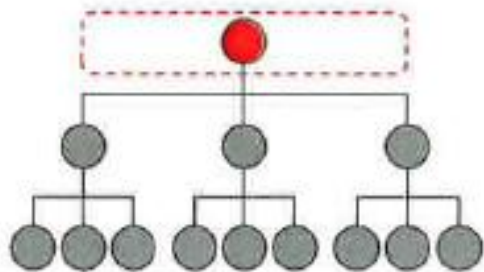


リーダーとは



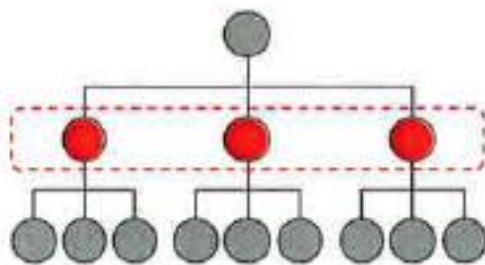
「防災リーダー」には、複数のタイプが存在する
(一人だけではない)

Type.1
組織の代表者



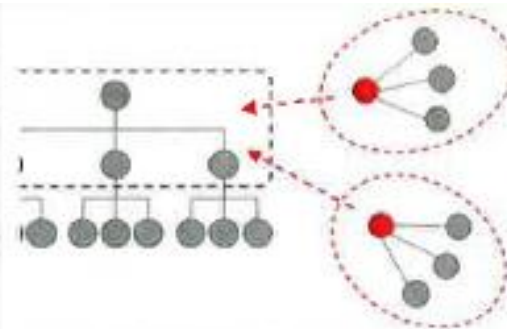
地域の防災力向上に向け、組織をまとめ、自主防災活動全般を見渡して地域を牽引する

Type.2
特定の活動の中心となる立場にある者



求められる防災活動の一翼を担い、具体的な防災活動の中心となる

Type.3
アドバイザー・調整役



専門的見地より、組織の内外から自主防災活動に対しアドバイスしたり、防災活動を担う組織間を結びつなぐ

リーダーとは



リーダーの基本条件には様々なタイプがあるが、災害後の状況や各段階（フェーズ）によって、役割は異なるのか？

《基本条件》

- ・ 複数のリーダーが必要
- ・ 地域にいて地域をよく知り信頼される
- ・ 地域の人を牽引できる、コーディネートできる
- ・ 防災に関心があり、防災活動に必要な知識やスキルを有している

次の段階における 防災リーダーの役割は？

「発災直後」

直後の安否確認、救出・救助、初期消火、二次災害防止などが求められる段階

「避難生活期」

災害発生から一定時間が経過した後の避難施設運営、在宅避難支援、要配慮者支援などが求められる



実際に見る対応の状況（発災直後～命を守る期間）

トップダウン型のリーダー

《何をしたのか》

◆ 救出活動

安否確認活動、生き埋め者、閉じ込め者の救出活動、遺体の近隣施設への一時安置

◆ 二次災害防止

安全な場所への避難の呼びかけ、通行人に対するガス漏れ**注意喚起・指示**、近隣住宅のガスの元栓閉め

◆ 弱者対策

高齢者への衣類の貸与、暖房を入れた車への収容、高齢者の病院への搬送、要配慮者への食糧の優先的割り当て

《どのようにしたのか》

- 「**ちょっと隣近所見てくる**」と言って出る
- **バーと走り回って**、誰々がいないということを**確認**する
- 戸をどンドン叩いて**命令調**で避難を**指示**
- 「**ちょっと手を貸してください**」と言って知らない通りがかりの人まで呼びかける
- 「**ああしろ、こうしろ**」と若い人に**指示**する



実際に見る対応の状況（避難生活期）

ネットワーク型のリーダー

《何をしたのか》

◆ **避難所の避難者等のマス対応**
避難所運営体制の構築、避難者に対する食事の提供、必要物資の確保・配布、トイレや自炊など避難所利用のルール作り、避難者の公平性と相互扶助の確保、ボランティアや物資等不要な資源を他の避難所等へ転用

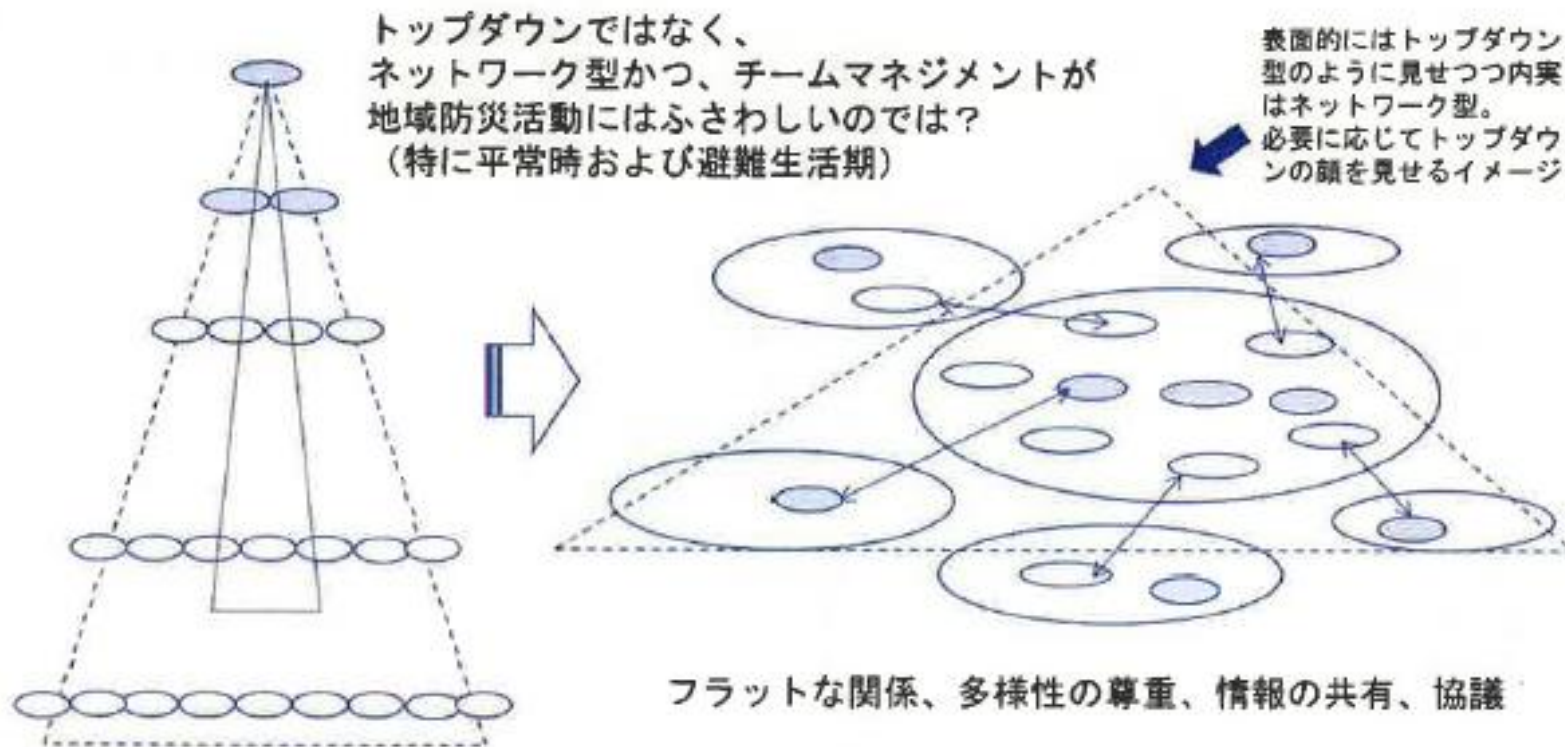
◆ **在宅被災者等の個別ニーズ対応**
在宅避難者に対する食糧や水の提供、避難所利用の呼びかけ、町内の見回り活動の実施、個別問題解決のため役所等との交渉

《どのようにしたのか》

- 学校のPTAの人と相談しながらチームを作って対応する
- 自治会の役員と相談しながら確認避難所の管理を行う
- 商店街の役員みんなで交代で実施
- 同じ教会組織の外部からの協力を得る
- 向こうの町内会にトイレ掃除を分担するよう交渉する
- 消防団員のローテーションを組む



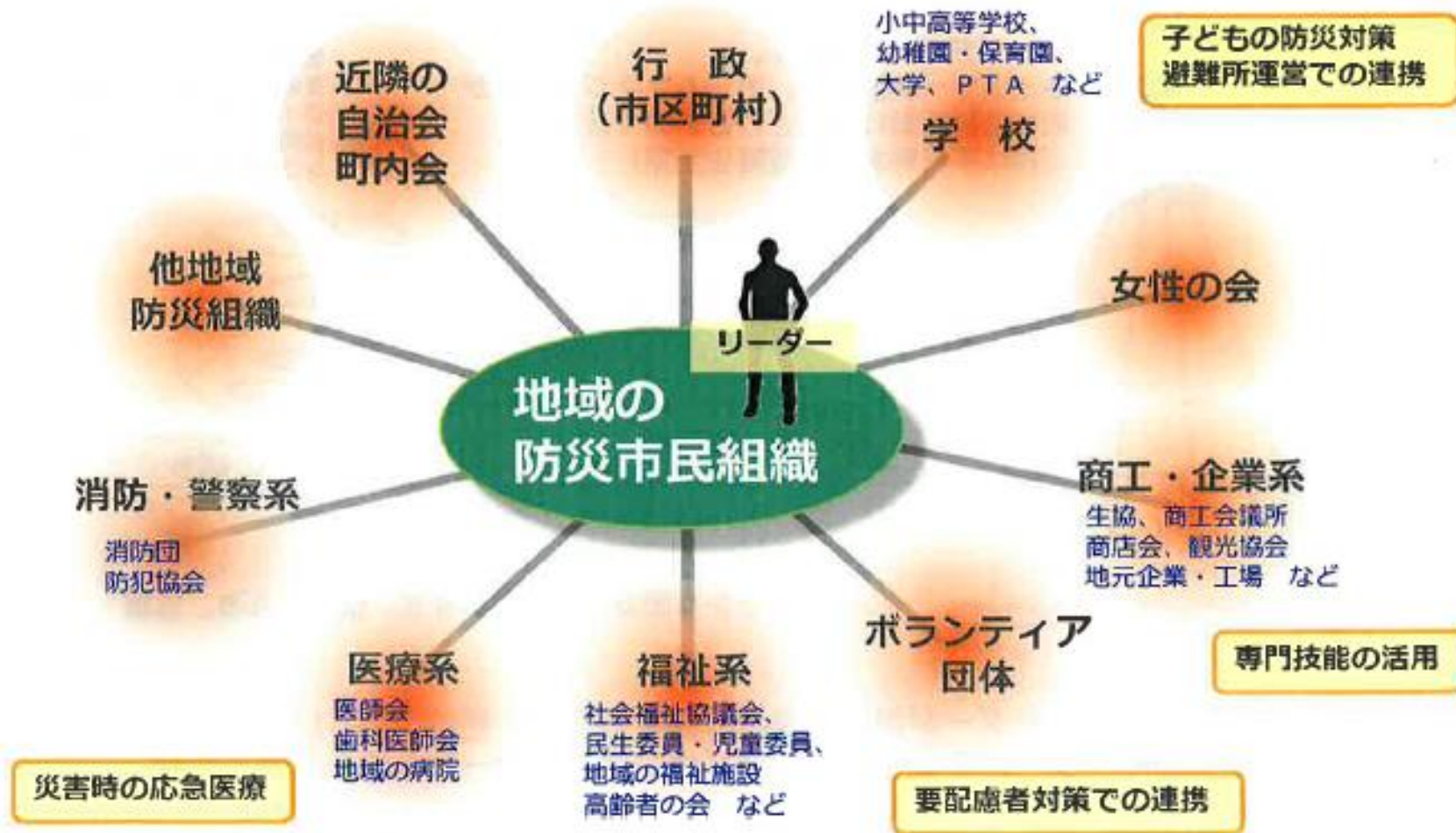
地域防災組織のマネジメントのこれから



- 地域組織はリーダーが倒れた場合に人材の代替・補給が難しい。
- 少数のリーダーが掌握するトップダウン体制、画一的な指示系統や訓練だと、臨機応変な対応が難しい。
- 一部の性・世代にリーダー層が偏っていると、災害時の諸課題に十分対応できない（特に避難生活期）。他の世代や性の人がかかわりにくい



多様な主体との連携・協力なくしては乗り切れない



リーダーには、地域の様々な人や団体との協働体制づくりが求められる

ii .グループワーク① (30分)

これまでの平常時
の取組みを共有し
よう♪



グループワーク①



災害時に災害対策を適切に実施できるようにするためには、平常時にどのような準備が必要でしょうか。

活動内容、その特徴・工夫していることを共有しましょう。

グループワーク①



- ・ テーブルごとに、意見交換を行きましょう。
- ・ いくつかの班に、発表していただきます。

< 取り組むこと > **全体で30分**

- ① 自己・グループ紹介 & 平時の取組紹介
- ② 役割を決める（リーダー、発表者、タイムキーパー）
- ③ 意見交換

グループワーク①



災害時に災害対策を適切に実施できるようにするためには、平常時にどのような準備が必要でしょうか。活動内容、その特徴・工夫していることを共有しましょう。

前スライド

グループワーク①



発表（2～3グループ）

iii. グループワーク② (30分)

今年はどんな取り組みを
していこうか...



グループワーク②



災害は一人では乗り切れません。
いつ、どのような人や組織と、何
について、協力・連携できるで
しょうか。

(ワークシートをご活用ください)

グループワーク②



- ・各避難施設グループに分かれて共有し、意見交換を行いましょう。
- ・いくつかの班に、結果を発表していただきます。

< 取り組むこと > **全体で 30分**

- ① 役割を決める
- ② 意見交換

グループワーク②



災害は一人では乗り切れません。
いつ、どのような人や組織と、何
について、協力・連携できるで
しょうか。
(ワークシートをご活用ください)

グループワーク②



発表（2～3グループ）

参考資料



- ・ 自主防災組織の手引き（町田市）

<https://www.city.machida.tokyo.jp/kurashi/bouhan/bousai/earthquake/taisaku/tiikisaigaitaisaku.html>

- ・ 避難施設運営モデルマニュアル（町田市町内会・自治会連合会）

<https://machida-shiren.com/rengokai/474/>

- ・ 東京都女性防災人材育成テキスト（東京都）

<https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/kyojyo/1005416/1005791.html>

- ・ 首都直下地震等による東京の被害想定（令和4年5月25日公表）（東京都）

<https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/taisaku/torikumi/1000902/1021571.html>



自主防災組織の手引き



質疑応答



ご参加いただきありがとうございました。
参加者アンケートにご協力をお願いいたします。
